

授業科目名： 英語科教育法特論Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 金森 強
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
受講生が、国内外の外国語教育の動向を踏まえ、「令和の日本型教育」における英語教育の新しい方向性、指導の目標・内容・指導方法・評価等を理解し、指導者に求められる高度な専門的知識・技能、および卓越した実践的指導力を身につけることを到達目標とする。			
授業の概要			
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な取り組みが求められる現在。育成されるべき資質・能力、および外国語・英語教育の世界的動向を踏まえ、小学校・中学校・高等学校を通じた一貫性のある新しい英語教育のあり方（目標、指導法、評価）について、理論・実践・研究の3領域を統合する視座から学ぶ。			
英語教育、外国語教育に関する国内外の文献・資料をクリティカルに読み込み、受講生間で協議しながら理解を深め、専門的資質・能力を高める。また、実践的指導力を高めることを目指して Action Research で授業改善に取り組む方法を身に付ける。			
授業計画			
第1回：ガイダンス 外国語教育に関する課題について 15回目の授業で発表する研究テーマを決定するために現状の課題について考える。			
第2回 Action Research について Action Research による授業改善の方法について考察し理解を深める。			
第3回：「令和の日本型教育」における英語教育の方向性について 各段階の学習指導要領に記されている目標、内容を確認するとともに「令和の日本型教育」における英語教育の在り方について考える。			
第4回：小中の接続と連携について 小学校から始まる英語教育の中学校への効果的な接続の在り方について考える。 受信語彙から発信語彙につなげる音声指導。			
第5回：中高の接続と連携について 中高の接続の在り方、育てるべき高次の思考能力、即興性の育成について考える。			
第6回：高等学校段階の教材研究について 論理・表現の授業の目標、内容、指導、評価の在り方について考える。			
第7回：第二言語習得理論研究の成果について 最新の第二言語習得理論について情報を得るとともに、教室での指導に生かす方法を考える。			
第8回：外国語教授法について CLT,CLIL の視点から教室における指導の在り方、教材開発について考える。			
第9回：Action-oriented Approach による言語教育について ヨーロッパ言語共通参照枠、ヨーロッパ言語ポートフォリオについて考察し理解を深める。			

第10回：学習者の自律的成長を促す形成的評価について Can-Do リストを効果的に用いたふりかえり活動の重要性と形成的な評価の在り方について考察し理解を深める。 第11回：コミュニケーション方略、学習方略の育成について フィンランドのナショナルカリキュラムに関する考察を通して、Learning Strategy 育成の重要性と主体的な学びに向かう力の育成について理解を深める。 第12回：ICT を活用した英語教育について 学びの共有、フィードバックを豊かにする学習支援ソフトウェアの効果的な利用について考察し理解を深める。 第13回：AI・メタバースを利用した英語教育について デジタル教材の可能性、効果的な使用の在り方について考察し理解を深める。 第14回：語彙指導について 音声言語としての語彙力を効果的に指導する方法在について考察し理解を深める。 第15回：個人研究発表 研究した特定のテーマについて理論に基づいた教材、指導法を含めて提案を行う。																											
テキスト <table> <tr> <td>小学校学習指導要領</td><td>外国語活動・外国語編</td><td>(平成29年3月告示)</td><td>文部科学省</td></tr> <tr> <td>小学校学習指導要領解説書</td><td>外国語活動・外国語編</td><td>(平成29年7月告示)</td><td>文部科学省</td></tr> <tr> <td>中学校学習指導要領</td><td>外国語編</td><td>(平成29年3月告示)</td><td>文部科学省</td></tr> <tr> <td>中学校学習指導要領解説書</td><td>外国語編</td><td>(平成29年7月告示)</td><td>文部科学省</td></tr> <tr> <td>高等学校学習指導要領</td><td>外国語編</td><td>(平成30年3月告示)</td><td>文部科学省</td></tr> <tr> <td>高等学校学習指導要領解説書</td><td>外国語編</td><td>(平成30年7月告示)</td><td>文部科学省</td></tr> </table>				小学校学習指導要領	外国語活動・外国語編	(平成29年3月告示)	文部科学省	小学校学習指導要領解説書	外国語活動・外国語編	(平成29年7月告示)	文部科学省	中学校学習指導要領	外国語編	(平成29年3月告示)	文部科学省	中学校学習指導要領解説書	外国語編	(平成29年7月告示)	文部科学省	高等学校学習指導要領	外国語編	(平成30年3月告示)	文部科学省	高等学校学習指導要領解説書	外国語編	(平成30年7月告示)	文部科学省
小学校学習指導要領	外国語活動・外国語編	(平成29年3月告示)	文部科学省																								
小学校学習指導要領解説書	外国語活動・外国語編	(平成29年7月告示)	文部科学省																								
中学校学習指導要領	外国語編	(平成29年3月告示)	文部科学省																								
中学校学習指導要領解説書	外国語編	(平成29年7月告示)	文部科学省																								
高等学校学習指導要領	外国語編	(平成30年3月告示)	文部科学省																								
高等学校学習指導要領解説書	外国語編	(平成30年7月告示)	文部科学省																								
参考書・参考資料等 各回のテーマに関連する文書・報告書等を授業で事前に紹介する。 国立教育政策研究所(2020) 「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料（外国語編）」 吉島 茂 編著(2007年)『外国語教育IV』 朝日出版 (2016年)『外国語教育VI』 朝日出版 矢野安剛 編著(2012年)『英語教育学大系 第2巻』大修館書店 投野由紀夫編著(2014年)『CEFR-J ガイドブック』投野由紀夫編著 大修館書店																											
学生に対する評価	レポート70%	発表等	30%																								

授業科目名： 英語科教育法特論 II	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 金森 強
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
受講生は、英語教育における「あり得べき教育・教科書・教材（Digitalを含む）」について、今日的な様々な教育課題を踏まえて理解し、各段階に応じた教科書・教材開発のために必要となる知識・開発能力を身に付けることを到達目標とする。			
授業の概要			
中学校、高等学校で用いられる教科用図書は学校教育上きわめて大きな役割を担っており、国が検定を行うとともに、学校における使用義務が課せられている。教科用図書の質的向上、および充実が求められることになるが、学習の個性化や指導の個別化、IC の効果的活用、児童生徒の多様化や学習意欲の低下など、直面する教育課題にどのように対応していくかが大きな課題である。			
本講義では、「令和の日本型教育」に応じた外国語教育の在り方を踏まえ、今日的な教育課題を踏まえた上で、GIGA スクール構想を含めて、今後の中学校・高等学校用教科用図書の在り方や教材開発につながる研究を行う。その際、教科用図書・デジタル教科書、教科書の内容と関連する学習者用デジタル/オンライン教材、指導者が学習状況の把握や学習者へのフィードバックに使用する学習支援ソフトウェアも含め、これからの時代の学校教育において、あり得べき教育、そのための教科書・教材について検討する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス 外国語教育の教材、教科書に関する課題について 15 回目の授業で発表する研究テーマを決定するために現状の課題について考える。			
第2回：令和の日本型教育における英語教育の方向性について ICT・AI・メタバースの利用等、ギガスクール構想における英語授業の現状を知る。			
第3回：個別最適な学びの視点からの教材の在り方について 教室外学習の可能性、タブレットを効果的に利用した個別最適な学びを考える。 音声語彙の指導のための教材開発の工夫。			
第4回：個別最適な学びの実施に関連した学習活動、およびその教材作成について 教材の特徴等についてアイデアを出し合い、課題や可能性について検討する。			
第5回：協働的な学びについて 効果的な協働学習実施に必要な条件、指導方法に関する理論的知識を得る。 プロジェクト学習の効果的な利用。			
第6回：協働的な学びの実施に関連した学習活動、およびその教材作成について 具体的な学習活動のアイデアを出し合い、課題や可能性について検討する。			
第7回：英語教育における「生きて働く知識・技能の育成」について 目的、場面、状況に応じた思考・判断・表現の能力の指導と評価の一体化を生み出す教育プログラムについて考察し理解を深める。パフォーマンステスト開発			
第8回：「生きて働く知識・技能」育成のための学習活動、およびその教材作成について			

教材の特徴等、具体的なアイディアを出し合い、課題や可能性について検討する。		
第9回：英語教育における高次の思考能力が育つ教材について		
高次の思考能力を育成するための指導・教材の在り方について考察し理解を深める。		
課題解決/PBL 教材開発		
第10回：高次の思考能力育成のための学習活動、およびその教材作成について		
具体的な教材のアイディアを出し合い、課題や可能性について検討する。		
第11回：デジタル教科書、学習者用デジタル/オンライン教材、学習支援ソフトウェアの在り方について		
デジタル教材の可能性と課題について考察し理解を深める。		
第12回：生成 AI を活用した学習について		
生成 AI を利用した英語教育、教材の在り方について考察し理解を深める。		
第13回：生成 AI を活用した学習活動、その教材作成について		
具体的な教材のアイディアを出し合い、課題や可能性について検討する。		
第14回：ICT・メタバース等を効果的に活用した学習の在り方について		
教室での学びと教室外における学びを有機的に結ぶシラバス作成について検討する。		
第15回：個人研究発表		
研究した特定のテーマについて理論に基づいた教材、指導法を含めて提案を行う。		
テキスト		
文部科学省		
小学校学習指導要領	外国語活動・外国語編	(平成29年3月告示)
小学校学習指導要領解説書	外国語活動・外国語編	(平成29年7月告示)
中学校学習指導要領	外国語編	(平成29年3月告示)
中学校学習指導要領解説書	外国語編	(平成29年7月告示)
高等学校学習指導要領	外国語編	(平成30年3月告示)
高等学校学習指導要領解説書	外国語編	(平成30年7月告示)
参考書・参考資料等		
各回のテーマに関連する文書・報告書等を授業で事前に紹介する。		
国立教育政策研究所 (2020)		
「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料 (外国語編)」		
内閣府(2021)「Society 5.0 の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ<中間まとめ>」 総合科学技術・イノベーション会議教育・人材育成ワーキンググループ		
文部科学省 (2021)「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)」 中央教育審議会		
文部科学省 (2023)「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた教科書・教材・ソフトウェアの在り方について～審議経過報告～」中央教育審議会特別部会		
文部科学省 (2023)「義務教育の在り方ワーキンググループ論点整理」 特別部会 WG		
学生に対する評価	レポート70%	発表等 30%

授業科目名： 学校教育学特論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 手 嶋 將 博
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
生涯学習社会を迎えて、大人にとっても子どもにとっても、学習・教育の場が多様化している。そのため、今日の社会において学校教育の役割は何なのか、教師の役割は何なのかということが、改めて問い返されている。この授業では、日本の学校教育における様々な課題を中心に、教育の歴史・制度・政策等に比較・国際教育学の視点も加えつつ学ぶことを通して、組織的・計画的な教育の場としての学校教育の役割を考えていく。			
授業の概要			
教育史・教育制度・教育政策等の中から、受講者が自己の関心事を選択し、先行研究に学びつつ、日本の教育の現状や課題、将来的なありようについて、主体的に分析・考察することができ、さらに、論点を明確にしたレポートを作成、プレゼンテーションを行う。授業形態は、ゼミ形式の文献講読・発表・ディスカッションにより授業を進める。学生が各回のテーマについて分担して報告・発表を行い、それを元に討論を行って、学校教育に関する知識・理解・思考を深め、課題を検討する。			
授業計画			
第1回：授業オリエンテーションー日本の学校教育における諸課題と受講者の関心の確認			
第2回：「令和の日本型学校教育」の概要ーその成立過程と目的・内容の検証			
第3回：「個別最適な学び」と「協働的な学び」をどう両立させるか			
第4回：新学習指導要領と国際スタンダードな学力の育成			
第5回：教員の「多忙化」の要因と現状およびその改善			
第6回：「チーム学校」がより良く機能するために何が必要か			
第7回：学校・家庭・地域の連携ー学校の「スリム化」と家庭・地域との連携のあり方			
第8回：さまざまな「多様性」への対応を求められる学校			
第9回：児童生徒の「自己肯定感」を高める学校・学級経営			
第10回：児童生徒の「主体的な学び」の育成をどのように行うか			
第11回：「横断的な学習」の評価のあり方ー入試選抜と教育接続の視点から			
第12回：ICT教育が本当に目指しているものは何かー「GIGAスクール構想」との関連から			
第13回：「持続可能な開発目標（SDGs）」を通じた学びと「持続可能な社会」			
第14回：「教員に求められる資質能力」を再考するー養成・採用・研修の視点から			
第15回：本授業のまとめと振り返りー日本の学校教育の未来展望			

定期試験

期末レポートを作成・提出する。各回の授業では、各テーマについて分担して報告・発表（プレゼンテーション）を行い、授業後には、授業で用いたレジュメや資料を用いて討論したテーマに関する振り返りを行い、自分の考えをまとめたワークシートを作成し、翌週の授業前日までに提出させ、評価する。期末レポートは、これらのワークシートを基に、第15回授業後に「現代日本の学校教育の課題」に関するレポートを作成、提出されたものを評価する。普段の授業でのレジュメや提出物（ワークシート）50%、期末レポート50%を総合評価し、定期試験に替えるものとする。

テキスト

・須藤康介著、『教育問題の「常識」を問い直す一いじめ・不登校から家族・学歴まで』（第2版）、明星大学出版部、2019年。

参考書・参考資料等

・『幼稚園教育要領』、『小学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領』、いずれも文部科学省編（最新版）
 ・その他、各回の授業で扱うテーマに準じた書籍や資料を用いるため、前回の授業時終了時まで必要に応じて指示する。

学生に対する評価

授業中の課題（発表・ディスカッション等）への取り組み、および、レジュメ・提出物（50%）、期末レポート（50%）による総合評価。成績はAA（90点以上）、A（89 - 80点）、B（79 - 70点）、C（69 - 60点）、D（59点以下）の各段階で表され、Dの場合、単位取得は認められない。授業への出席が2/3を満たしていない場合、評価はF（資格なし）となり、期末レポートの提出資格はなくなる。単位認定はAA、A、B、Cまでとする。

授業科目名： 教育社会学特論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：高橋克巳 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 社会学的な考え方を理解し、その考え方を駆使して、学校内のさまざまな諸事象を捉え、深く理解することができる。			
授業の概要 本講義では、教育に関する諸事象を、社会学の視角から考察していく。「社会学の視角」とは何か、ということに対する理解がまず重要である。社会学の基礎を学習した後、試験、校則、教科書等々、学校における身近な諸事象を改めて考え直していく。具体的には、以下の文献購読が中心になる。履修生は、輪番で各章を担当し、レジュメの作成、報告の後、意見交換し理解を深める。			
授業計画 第1回：社会学的な考え方とは何か 第2回：第1章 試験の秘密（前半 試験はドキドキ、ハラハラ 試験のルール 大学での実験 その他） 第3回：第1章 試験の秘密（後半 公平と比較 時計の時間 さまざまな時間 その他） 第4回：第2章 校則はなぜあるの？（前半 中学生になったら 法律と校則 制服をなぜ着るの？ その他） 第5回：第2章 校則はなぜあるの？（後半 「非行の芽」 反抗のリトマス試験紙 その他） 第6回：第3章 教科書って何だろう（前半 学校で教える知識 教科書にのる知識とは？ 学校で教える知識の決め方 その他） 第7回：第3章 教科書って何だろう（後半 ナショナル・カリキュラム 経済の国際競争と教育 その他） 第8回：第4章 隠れたカリキュラム（前半 教科書以外の知識 授業中に何を習うのか 時間を守る その他） 第9回：第4章 隠れたカリキュラム（後半 学校と隠れたカリキュラム 男子と女子 その他） 第10回：第5章 先生の世界（前半 もうひとりの主人公 先生の仕事 教師本来の仕事 その他）			

第11回：第5章 先生の世界（後半 限らない期待 社会の変化と学校の責任 その他）
 第12回：第6章 生徒の世界（前半 自分たちのこと 「アイデンティティ」 生徒という地位 その他）
 第13回：第6章 生徒の世界（後半 生徒の演じ方（その1）ほどほどのよい生徒 その他）
 第14回：第7章 学校と社会のつながり（前半 「学歴社会」と学校 受験のプレッシャー その他）
 第15回：第7章 学校と社会のつながり（後半 肩書きだけでは通用しない 「生まれ」と学歴 「生まれ」と成績 その他） まとめ
 定期試験

テキスト

荻谷剛彦『学校って何だろう 教育の社会学入門』筑摩書房、2005年

参考書・参考資料等

適宜、授業の中で紹介する。

学生に対する評価

授業における発表、及び討議、提出されたレポートを踏まえて総合的に評価する。

授業科目名： 教育心理学特論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 中本（石沢）敬子 担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 教育心理学の中でも特に学習の領域に焦点を当て、深く広範な知識を習得するとともに、教師の指導と学習者の学習のあり方について実践につなげられるような教育心理学的な考え方を形成することを目指す。			
授業の概要 まず、知識や技能の習得に関する基礎理論を確認し近年の知見を習得し、教師としてどのように指導に活かすかについて検討する。つぎに、学習に対する動機づけについて学習環境と自己形成の観点から理論や近年の研究成果を吟味する。また、学習評価の機能を確認し、学習や指導にどのように活かすべきかを検討する。さらに教育心理学の知見を生かした授業分析のあり方と指導改善について考察する。 授業は、教員による解説、資料の購読、受講者の発表とそれに対する討論を適宜組み合わせて構成する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、受講者の学習観・指導観の検討 第2回：学習や思考に関する人間の特性 第3回：知識と認知的技能の習得と指導 第4回：記憶のメカニズムと教育への応用 第5回：概念の習得と知識の転移 第6回：学習に対する練習の影響 第7回：熟達者の特徴と熟達化 第8回：学習スタイルと個人差への対応 第9回：言語能力の育成 第10回：外国語の学習 第11回：動機づけに対する学習環境の影響 第12回：学習への動機づけと自律の関係 第13回：学習評価とフィードバック 第14回：授業分析の方法と指導の改善 第15回：まとめと展望			

テキスト

使用しない。

参考書・参考資料等

各回の内容に関連した論文等の資料を指定する。

学生に対する評価

発表や討論への参加状況（20%），発表や討論の内容（40%），ミニ・レポート等の授業外課題（40%）によって総合的に評価する。

授業科目名： 学校経営学特論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐藤 晋平
				担当形態： 単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等				
授業のテーマ及び到達目標				
・ 根拠を提示できない漠然とした「正しさ」に対し、別の、根拠のある視角から批判することができる。				
・ 自身の身近な事例について、授業のテーマに即し正義の観点から考察することができる。				
授業の概要				
今日、私が少し贅沢な食事をしたとする。それは地球の裏側の貧しい子どもの命を奪うことになるのか。あるいはそうした貧困での裸足の路上サッカーからプロにまで上りつめたサッカー選手の華麗なプレイに少し贅沢な食事を取りながら感動する私は、不正義な人間か。				
教育の現場。教師が、友人を「からかう」児童に「いじめ」の可能性を指摘するのは正義か。この指摘によって「じゃれあい」の無い、沈黙した、硬直したクラスを作りあげることは正義か。授業を乱す生徒を厳しく指導するのは正義か。その生徒の背後にある貧困、虐待の影に思いを馳せ、厳しい指導ができなくなってしまうのは、不正義なのか。				
近年の教育の現場では、何をしても批判され、何をしなくても批判される。それはそもそも、教育が成長を強制する暴力を胚胎していることに関係する。教育にとって根深いこの問題を、根源から考察していく。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション				
第2回：現代の教育問題と正義／不正義				
第3回：教育と社会の関係のねじれ				
第4回：教育と政治の関係のねじれ				
第5回：教育と経済の関係のねじれ				
第6回：教育と近代的主体				
第7回：教育とポスト・人間主体				
第8回：正義の視角①－分配と承認				
第9回：正義の視角②－共同体				
第10回：正義の視角③－言語				
第11回：正義の視角④－暴力				
第12回：正義の視角⑤－精神分析				

第13回：正義の視角⑥ー人間と動物

第14回：総合討論①ー教育と主体の問題について

第15回：総合討論②ー教育と正義の問題について

定期試験 なし

テキスト

使用しない。教員が適宜用意する。

参考書・参考資料等

・宮寺晃夫『教育の正義論』岩波書店 2014年

・アイリス・マリオン・ヤング（飯田文雄、荻田真司、田村哲樹監訳）『正義と差異の政治』
法政大学出版局 2020年

・アルフォンソ・リングス（中村裕子訳）『汝の敵を愛せ』洛北出版 2004年

学生に対する評価

毎授業における報告から評価する。

授業科目名： 障害児教育特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 成田 奈緒子
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
障害児、特に近年増加傾向にあるといわれる発達障害のある児童生徒への理解と支援について、科学的な根拠から学び取ることができる。また、実際に障害のある人と交流することにより、本質的な相互理解を進めることができる。			
授業の概要			
近年、通常の学級における障害のある児童生徒への教育、すなわち特別支援教育に関する知識と経験のニーズは次第に高まってきている。適切な指導・教育を行っていくためには、障害のある児童生徒の身体内部で何が起きているのかをまず知り、その上で周りの物理的、人的環境をいかに整えていくことが必要かを考えていくことが重要である。 本講義においては、まず医学的な知識を学び、さらに数々の症例を通して実際の教育現場での状況をシミュレーションすることで、障害のある児童生徒を（主に通常の学級で）どのように支援をしていくことが重要なのかを学ぶ。そして、将来学校現場においてさらにその知識を広く応用していける能力を高めることを目的とする。			
授業計画			
第1回：授業のオリエンテーション			
第2回：子どもの発達を理解する1 脳の育ちの順番とバランス			
第3回：子どもの発達を理解する2 障害があるということ			
第4回：子どもの発達を理解する3 「健常」な子どもの異常			
第5回：こころの育ちとは1 こころの定義について学ぶ			
第6回：こころの育ちとは2 こころの立役者モノアミン神経			
第7回：こころの育ちとは3 セロトニン神経と不安コントロール			
第8回：こころの育ちとは4 セロトニン神経を鍛えるコツ			
第9回：睡眠障害と二次障害			
第10回：二次障害としての不安障害の様々な形			
第11回：親子関係に起因する様々な問題			
第12回：発達障害事例を想定した演習			
第13回：精神障害事例を想定した演習			
第14回：自律神経測定・脳機能測定の実際			

第15回：総括討論・小論文作成

定期試験

テキスト

成田奈緒子著

「発達障害」と間違われる子どもたち

青春出版社 ISBN 978-4-413-04665-7

参考書・参考資料等

必要な場合は、授業開始前に指示する。その他適宜プリント等を使用する。

学生に対する評価

全15回の講義終了後に筆記試験を行う。AA)100点～90点 A) 89点～80点 B)79～70点 C)69～60点 D)59点以下の基準で評価をつける。

授業科目名：臨床心理学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：小野里(小林)美帆 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 子どもの問題をアセスメントし、支援方針がたてられる基礎的な力を身に付けることを目的とする。			
授業の概要 心理臨床活動の基礎となる諸理論、基礎知識、検査、技法について理解することを通して、子どもの状態を理解し、支援を行ううえで必要な臨床心理学的視点について学ぶ。子どもの問題には必ず背景となる様々な要因が存在する。精神疾患や障害、問題となる行動を理解するために必要な発達の視点、環境的要因、その他子どもや子どもに関わる大人に影響を及ぼす諸要因についてダイナミックにとらえる必要性について学ぶ。具体的には、基礎的知識習得の後、事例検討、演習を通して、子どもの行動をアセスメントし、支援方法を考える力量をつける。			
授業計画 第1回：講義概要：臨床心理学的視点と近接領域 第2回：基礎理論①発達論：発達のとらえかた 第3回：基礎理論②行動論、認知論 他 第4回：「問題」となる行動のとらえ方 第5回：アセスメント①心理検査、医学情報の利用 第6回：アセスメント②情報収集の方法、行動観察、生態学的側面 第7回：精神医学（統合失調症、気分障害、神経症、ストレス、不安 他） 第8回：発達期におこる問題①：発達障害 第9回：発達期におこる問題②：場面緘黙、吃音 他 第10回：様々な問題と支援：不登校、いじめ、攻撃性 他 第11回：保護者にかかわる問題：子育て不安、不適切な養育、虐待、愛着障害 第12回：様々な支援方法①行動論、遊戯療法、家族療法 他 第13回：様々な支援方法②臨床発達心理学的アプローチ、コンサルテーション 第14回：学校臨床心理学：スクールカウンセラー、個別指導計画 他 第15回：学校教育と現代社会課題と臨床心理 定期試験（レポート）			
テキスト 武田明典（2023）心理教育としての臨床心理学 北樹出版			

参考書・参考資料等

尾崎康子・三宅篤子（2016）知っておきたい発達障害のアセスメント ミネルヴァ書房

金谷京子・森正樹（2017）保育巡回相談ガイドライン 金子書房

西本絹子・藤崎真知代編著（2018）臨床発達支援の専門性（講座：臨床発達心理学） ミネルヴァ書房

山崎晃・藤崎春代（2018）臨床発達心理学の基礎（講座：臨床発達心理学）ミネルヴァ書房長

崎勤・古澤頼雄・藤田継道（2002）臨床発達心理学概論 ミネルヴァ書房

小林芳郎（2010）発達のための臨床心理学 保育出版社

学生に対する評価

授業への出席を基本として、期末課題70%、授業内の提出物や参加態度30%の割合で、総合的に評価する。成績評価の基準は、AA（100～90点）（自分なりの問題意識をもち、課題を的確に理解し、授業に積極的に参加している。授業の目的が十分達成されている）、A（89～80点）（自分なりの問題意識をもち、課題を的確に理解し、授業に積極的に参加している）、B（79～70点）（授業参加、提出物については問題ないが、課題の理解力がやや不足している）、C（69～60点）（授業に参加しているが、課題の理解力が不足している）とする。

授業科目名： 教育評価特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山森光陽 担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 (1) 教育的介入の効果の示し方，まとめ方，読み取り方を身につける。 (2) 教育的介入の効果の研究知見を統計的に統合した結果から示唆される効果的な学習評価の在り方を理解する。 (3) 教育的介入の効果の研究知見を参照した意思決定を専門的にできる考え方を形成する。			
授業の概要 教育評価とは，教育的営為の過程や成果に対して価値判断を行なうことであり，自己評価，相互評価，学習評価，授業評価，教員評価，カリキュラム評価，学校評価といった，さまざまなものが含まれる。この講義では主に，学習評価とカリキュラム評価を対象とし，以下の事項を検討する。 (1) 教育的介入の効果の示し方，まとめ方，読み取り方 (2) 教育的介入の効果の研究知見を統計的に統合した結果から示唆される効果的な学習評価の在り方 (3) 教育的介入の効果の研究知見を統計的に統合した結果から作成されたいわゆる「効果一覧表」(toolkit) の意義と課題 これらの事項に関するテキストの講読と，内容に関する議論を通じて，自身が行った教育的介入の効果を記述できるようになること，教室での学習評価を教育心理学的合理性をもって効果的に実施できるようになること，教育的介入の効果の研究知見を参照した意思決定を専門的にできるようになることにつなげる。そして，修士修了レベルの教員に求められる高度な専門性の涵養を目指す。			
授業計画 第1回：教育的介入の効果に関する研究の現状（イントロダクション） 第2回：教育研究におけるメタ分析の意義（教科書第1章） 第3回：教育研究におけるメタ分析の始まりと展開（教科書第2章） 第4回：メタ分析の結果のさらなる統計的統合（教科書第3章） 第5回：教育的介入の効果の研究知見を参照した意思決定（教科書第4章）			

第6回：メタ分析の結果から示唆される効果的な学習指導：フィードバック（教科書第5章）
 第7回：メタ分析の結果から示唆される効果的な学習指導：メタ認知（教科書第5章）
 第8回：メタ分析の結果から示唆される効果的な学習指導：デジタル技術の活用（教科書第5章）
 第9回：メタ分析の結果から示唆される効果的な学習指導：学習スタイル（教科書第5章）
 第10回：メタ分析の結果から示唆される効果的な言語能力の育成（教科書第6章）
 第11回：メタ分析の結果から示唆される保護者の関与の効果（教科書第7章）
 第12回：メタメタ分析による学習に影響を与える諸要因の効果の一覧化（教科書第8章）
 第13回：教育研究と実践上の意思決定におけるエビデンスの意義と課題（教科書第8章）
 第14回：研究者と実践者との間での研究知見を仲立ちにしたコミュニケーション（教科書第8章）
 第15回：教育的介入の効果に関する研究やエビデンスにもとづく教育の推進の動向に対する教育心理学的検討（まとめ）

テキスト

Higgins, S. (2018). *Improving learning: Meta-analysis of intervention research in education*. Cambridge University Press.

参考書・参考資料等

Cooper, L. V. Hedges, & J. C. Valentine (Eds.) (2019). *The handbook of research synthesis and meta-analysis*. 3rd ed. Russell Sage Foundation.

ハッティ, J. 山森 光陽（監訳）（2018）. 教育の効果—メタ分析による学力に影響を与える要因の効果の可視化 図書文化

大久保街亜・岡田謙介（2012）. 伝えるための心理統計—効果量・信頼区間・検定力 勁草書房

辰野千壽・北尾倫彦・石田恒好（監修）（2006）. 教育評価事典 図書文化

山田剛史・井上俊哉（編）（2012）. メタ分析入門—心理・教育研究の系統的レビューのために 東京大学出版会

学生に対する評価

出席時間数が一定以上の院生を対象に、授業概要に示したこの講義の目標に到達したかを判断するための課題を課し、その出来具合によって評価します。

授業科目名： 調査・統計法演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中本（石沢）敬子
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 1. 記述統計学と推測統計学の基本を理解し、調査報告等で示された数値データを読み取るための技能を習得する。 2. 与えられたデータに対して目的に応じて適切な統計手法を選択して適用し、得られた結果を解釈できるようになる。 3. 統計的な分析を含むレポートや論文に触れた際に、その手法の妥当性や結果の解釈の適切性について批判的に吟味できるようになる。			
授業の概要 質問紙調査や学力検査等から取得した数値データをもとに意味のある検討を行うためには、統計的な処理を行う必要がある。この科目では、心理統計を中心に、記述統計学や推測統計学の基礎を講義と演習を通して学習する。また、ExcelとRを使つてのデータ処理にも触れる。			
授業計画 第1回：教育研究における調査・統計の必要性 第2回：教育研究で用いられる様々な研究法の特徴 第3回：測定と尺度、尺度水準 第4回：記述統計①：度数分布と数値要約 第5回：記述統計②：2変数の連関・相関 第6回：記述統計に関する事例を用いた検討・テスト 第7回：推測統計学の基礎①母数の推定 第8回：推測統計学の基礎②統計的仮説検定の基礎 第9回：平均値の差の検定①t検定とその使い分け 第10回：平均値の差の検定②分散分析 第11回：適合度と独立性の検定：カイ2乗検定 第12回：統計的仮説検定に関する事例を用いた検討・テスト 第13回：多変量解析①回帰分析 第14回：多変量解析②因子分析 第15回：統計的仮説検定に関する事例を用いた検討・テスト			
テキスト			

山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『Rによるやさしい統計学』オーム社、2008

小宮あすか・布井雅人『Excelで今すぐはじめる心理統計 簡単ツールHADで基本を身につける』講談社、2018年

参考書・参考資料等

南風原朝和『心理統計学の基礎－統合的理解のために』有斐閣、2002年

南風原朝和『続・心理統計学の基礎－統合的理解を広げ深める』有斐閣、2014年

学生に対する評価

授業での課題への取り組み状況（20%）、授業時に行うテスト（40%）、授業外で行うデータ分析に関する課題（40%）によって総合的に評価する。

授業科目名： 発達心理学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 桑原（泉水）千明
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 この授業を受けることにより、生涯発達の視点から各発達段階について理解をすることができるようになる。また各段階の特徴を考慮した上での支援の方法を考えることができるようになる。			
授業の概要 この授業では、生涯発達についてのいくつかの理論を学ぶ。さらに各発達段階の特徴と課題について概観し、必要な支援について受講者同士のディスカッションを通して考察する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション：人の発達とは 第2回：環境の中での人の発達 第3回：知能と認知の生涯発達 第4回：言語とコミュニケーションの生涯発達 第5回：情動の生涯発達 第6回：人間関係の生涯発達 第7回：自己の生涯発達 第8回：社会性の生涯発達 第9回：乳児期の発達 第10回：幼児期の発達 第11回：児童期の発達①言語・思考の発達 第12回：児童期の発達②社会性の発達 第13回：青年期の発達 第14回：成人期の発達 第15回：老年期の発達			
テキスト 荻野美佐子著「発達心理学特論(改訂版)」放送大学教育振興会 2021 (ISBN 978-4-595-14148-5)			
参考書・参考資料等 授業中に紹介する			

学生に対する評価

授業への取り組み、レポートによって総合的に評価を行う。

AA：授業に積極的に参加し、課題を的確に理解し、レポート内容が特に優れている

A：授業に積極的に参加し、課題を的確に理解し、レポート内容が優れている

B：授業に参加し、課題を理解することはでき、レポート内容も標準的である

C：授業に参加し、課題を理解することはできているが、取り組みやレポート内容にやや難点がある

D：授業への参加が積極的でなく、課題の理解が不十分であり、レポート内容も大きな難点がある

授業科目名： 教育実践分析特論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 浅野信彦
				担当形態： 単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等				
授業のテーマ及び到達目標				
学校における教育実践を観察・記述するとともに、それを科学的に分析し、分析結果を報告書や論文にまとめ、実践者にフィードバックするという一連のプロセスを計画・実行できるよう、その基礎となる知識及び技能を習得する。到達目標は以下の通り。				
①教育実践を観察・記述し、それを分析したり報告書にまとめたりする一連の活動の基礎となる教育学の知識を身に付けている。				
②授業研究やカリキュラム研究の歴史と手法を踏まえ、具体的な実践研究論文を読み解き、その内容を評価することができる。				
授業の概要				
具体的な学習内容は以下の通り。				
①学習指導要領で強調されている「主体的・対話的で深い学び」と「カリキュラム・マネジメント」に関する教育学的な議論の蓄積を理解し、それらに関する研究動向を把握する。				
②授業研究の歴史と手法を概観し、これと関連する具体的な教育実践論文を読み解くことにより、境域実践を分析するための方法を学ぶ。				
授業計画				
第1回：「授業研究」と「カリキュラム研究」双方の視点からの教育実践研究の意義				
第2回：新学習指導要領によって求められる教育実践（1）資質・能力の育成				
第3回：新学習指導要領によって求められる教育実践（2）主体的・対話的で深い学び				
第4回：新学習指導要領によって求められる教育実践（3）カリキュラム・マネジメント				
第5回：日本の授業研究の独自性と国際化				
第6回：戦後新教育と授業研究の起源				
第7回：授業研究と教師教育				
第8回：授業研究とカリキュラム研究				
第9回：教育実践に関する論文講読（1）「日本教育方法学会」における研究論文				
第10回：教育実践に関する論文講読（2）「日本カリキュラム学会」における研究論文				
第11回：教育実践に関する論文講読（3）「日本生活科・総合的学習教育学会」における研究論文				
第12回：教育実践に関する論文講読（4）「日本教師教育学会」における実践研究論文				
第13回：教育実践記録の読解と解釈（1）小学校における教育実践記録				

第14回：教育実践記録の読解と解釈（2）中学校における教育実践記録

第15回：「教育実践分析特論」での学習成果を活用し、教育現場における観察研究の計画を立てる
定期試験

テキスト

使用しない

参考書・参考資料等

日本教育方法学会編『教育方法学研究』

日本カリキュラム学会編『カリキュラム研究』

日本生活科・総合的学習教育学会編『せいかつか&そうごう』

日本教師教育学会編『日本教師教育学会年報』

小学校学習指導要領（平成29年3月告示、文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年3月告示、文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示、文部科学省）

学生に対する評価

授業時の討論への参加状況や発言内容（50%）、毎回のレポート（50%）

授業科目名： 教育実践分析実習Ⅰ		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 永田 潤一郎・浅野 信彦
				担当形態： 複数・オムニバス
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等				
授業のテーマ及び到達目標				
1) 学校が教員間の連携の下、組織として動いていることを具体事例を通して理解する。				
2) 教員が生徒指導のためにどのような工夫をしているのか、指導教員の日常の働きの観察やインタビューを通して理解する。				
3) 教員が授業をわかりやすくかつ魅力あるものにするためにどのような工夫をしているのか、指導教員の日常の働きの観察やインタビューを通して理解する。				
授業の概要				
越谷市立小・中学校（受け入れ校）及び越谷市立教育センター等において実地に研究・実践を行う。月ごとの共通課題について理解するとともに、自身の研究課題を明確かつ具体的にすすめる。その上で、実践分析実習の受け入れ校において、週1日を原則にして実践分析実習を行う。その際、受け入れ校の教員及び本学の教員から指導・助言を受ける。また、月に1回大学において実践分析実習の成果を指導教員及び受講者間で交換して研究協議する。これらの取組を通して、実践分析の方法を学ぶとともに、教師力や授業力を身に付ける。また、学校組織の一員としてのあり方についても学ぶ。				
授業計画				
第1回：実習への取り組み方と分析の進め方を理解する。（担当：浅野信彦）				
第2回：本授業における先輩の取り組みを知り、実習の進め方を理解する。（担当：浅野信彦）				
第3回：実習の目標とその実現のための計画を立てる。（担当：浅野信彦）				
第4回：受講者間で実習の計画を共有し、評価・改善を図る。（担当：浅野信彦）				
第5回：実習校において導教員の教育実践を観察したりインタビューしたりすることによって、教育実践に込められた現場教師の配慮や意図を学ぶ。（その1：同一学級または教員の教育実践から学ぶ）（担当：浅野信彦、永田潤一郎）				
第6回：実習校において指導教員の教育実践を観察したりインタビューしたりすることによって、教育実践に込められた現場教師の配慮や意図を学ぶ。（その2：第5回と同じ学級または教員の教育実践から学ぶ）（担当：浅野信彦、永田潤一郎）				
第7回：実習校において指導教員の教育実践を観察したりインタビューしたりすることによって、教育実践に込められた現場教師の配慮や意図を学ぶ。（その3：第5、6回と同じ学級または教員の教育実践から学ぶ）（担当：浅野信彦、永田潤一郎）				

第8回：大学において実習を通して学びとった内容について受講者間で情報交換し、実習校指導教員の意図を大学指導教員の助言などを通して解釈し直す。（担当：浅野信彦、永田潤一郎）

第9回：大学における学びを基に、実習校において指導教員の教育実践を観察したりインタビューしたりすることによって、教育実践に込められた現場教師の様々な配慮や意図を学ぶ。（その1：第5～7回とは異なる学級または教員の教育実践から学ぶ）（担当：浅野信彦、永田潤一郎）

第10回：大学における学びを基に、実習校において指導教員の教育実践を観察したりインタビューしたりすることによって、教育実践に込められた現場教師の様々な配慮や意図を学ぶ。（その2：第9回と同じ学級または教員の教育実践から学ぶ）（担当：浅野信彦、永田潤一郎）

第11回：大学における学びを基に、実習校において指導教員の教育実践を観察したりインタビューしたりすることによって、教育実践に込められた現場教師の様々な配慮や意図を学ぶ。（その3：第9、10回と同じ学級または教員の教育実践から学ぶ）（担当：浅野信彦、永田潤一郎）

第12回：大学において実習を通して学びとった内容について受講者間で情報交換し、実習校指導教員の意図を大学指導教員の助言などを通して多面的に解釈し直す。（担当：浅野信彦、永田潤一郎）

第13回：大学における学びを基に、実習校において指導教員の教育実践を観察したりインタビューしたりすることによって、教育実践に込められた現場教師の様々な配慮や深い意図を学ぶ。（その1：第5～7回及び第9～11回とは異なる学級または教員の教育実践から学ぶ）（担当：浅野信彦、永田潤一郎）

第14回：大学における学びを基に、実習校において指導教員の教育実践を観察したりインタビューしたりすることによって、教育実践に込められた現場教師の様々な配慮や深い意図を学ぶ。（その2：第13回と同じ学級または教員の教育実践から学ぶ）（担当：浅野信彦、永田潤一郎）

第15回：大学において実習を通して学びとった内容について受講者間で情報交換し、実習校指導教員の意図を大学指導教員の助言などを通して整理する。（担当：浅野信彦、永田潤一郎）

テキスト

授業の中で指定する。

参考書・参考資料等

「実践研究」報告書（昨年度本授業の成果物。授業の中で配付する。）

学生に対する評価

主に次の3点から総合的に評価する。

- ・受け入れ校での実習への取組の状況
- ・実習のレポートの内容
- ・大学での研究協議における発言内容や参加態度

授業科目名： 教育実践分析実習Ⅱ		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 永田 潤一郎・浅野 信彦 担当形態： 複数・オムニバス
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等				
授業のテーマ及び到達目標				
1) 学校が教員間の連携の下、組織として動いていることを具体事例を通して深く理解する。				
2) 教員が生徒指導のためにどのような工夫をしているのか、指導教員の日常の働きの観察やインタビューを通して整理し理解する。				
3) 教員が授業をわかりやすくかつ魅力あるものにするためにどのような工夫をしているのか、指導教員の日常の働きの観察やインタビューを通して多面的に捉え理解する。				
授業の概要				
越谷市立小・中学校（受け入れ校）及び越谷市立教育センター等において実地に研究・実践を行う。月ごとの共通課題について理解するとともに、自身の研究課題を明確かつ具体的にすすめる。その上で、実践分析実習の受け入れ校において、週1日を原則にして実践分析実習を行う。その際、受け入れ校の教員及び本学の教員から指導・助言を受ける。また、月に1回大学において実践分析実習の成果を指導教員及び受講者間で交換して研究協議する。これらの取組を通して、実践分析の方法を学ぶとともに、教師力や授業力を身に付ける。また、学校組織の一員としてのあり方についても学ぶ。なお、11月には越谷市の教育研究センターにおける実習を実施する予定である。また、2月から3月の初旬には、1年間の研究の成果を「研究協議会」（越谷市教育委員会及び実習校校長や指導教員が参加）において発表する予定である。				
授業計画				
第1回：実習への取り組み方と分析の進め方を理解する。（担当：浅野信彦）				
第2回：本授業における先輩の取り組みを知り、実習の進め方を理解する。（担当：浅野信彦）				
第3回：実習の目標とその実現のための計画を立てる。（担当：浅野信彦）				
第4回：受講者間で実習の計画を共有し、評価・改善を図る。（担当：浅野信彦）				
第5回：実習校において導教員の教育実践を観察したりインタビューしたりすることによって、教育実践に込められた現場教師の配慮や意図を学ぶ。（その1：同一学級または教員の教育実践から学ぶ）（担当：浅野信彦、永田潤一郎）				
第6回：実習校において指導教員の教育実践を観察したりインタビューしたりすることによって、教育実践に込められた現場教師の配慮や意図を学ぶ。（その2：第5回と同じ学級または教員の教育実践から学ぶ）（担当：浅野信彦、永田潤一郎）				
第7回：実習校において指導教員の教育実践を観察したりインタビューしたりすることによって、教				

育実践に込められた現場教師の配慮や意図を学ぶ。（その３：第５、６回と同じ学級または教員の教育実践から学ぶ）（担当：浅野信彦、永田潤一郎）

第８回：大学において実習を通して学びとった内容について受講者間で情報交換し、実習校指導教員の意図を大学指導教員の助言などを通して解釈し直す。（担当：浅野信彦、永田潤一郎）

第９回：大学における学びを基に、実習校において指導教員の教育実践を観察したりインタビューしたりすることによって、教育実践に込められた現場教師の様々な配慮や意図を学ぶ。（その１：第５～７回とは異なる学級または教員の教育実践から学ぶ）（担当：浅野信彦、永田潤一郎）

第１０回：大学における学びを基に、実習校において指導教員の教育実践を観察したりインタビューしたりすることによって、教育実践に込められた現場教師の様々な配慮や意図を学ぶ。（その２：第９回と同じ学級または教員の教育実践から学ぶ）（担当：浅野信彦、永田潤一郎）

第１１回：大学における学びを基に、実習校において指導教員の教育実践を観察したりインタビューしたりすることによって、教育実践に込められた現場教師の様々な配慮や意図を学ぶ。（その３：第９、１０回と同じ学級または教員の教育実践から学ぶ）（担当：浅野信彦、永田潤一郎）

第１２回：大学において実習を通して学びとった内容について受講者間で情報交換し、実習校指導教員の意図を大学指導教員の助言などを通して多面的に解釈し直す。（担当：浅野信彦、永田潤一郎）

第１３回：大学における学びを基に、実習校において指導教員の教育実践を観察したりインタビューしたりすることによって、教育実践に込められた現場教師の様々な配慮や深い意図を学ぶ。（その１：第５～７回及び第９～１１回とは異なる学級または教員の教育実践から学ぶ）（担当：浅野信彦、永田潤一郎）

第１４回：大学における学びを基に、実習校において指導教員の教育実践を観察したりインタビューしたりすることによって、教育実践に込められた現場教師の様々な配慮や深い意図を学ぶ。（その２：第１３回と同じ学級または教員の教育実践から学ぶ）（担当：浅野信彦、永田潤一郎）

第１５回：大学において実習を通して学びとった内容について受講者間で情報交換し、実習校指導教員の意図を大学指導教員の助言などを通して整理する。（担当：浅野信彦、永田潤一郎）

テキスト

授業の中で指定する。

参考書・参考資料等

「実践研究」報告書（昨年度本授業の成果物。授業の中で配付する。）

学生に対する評価

主に次の３点から総合的に評価する。

- ・受け入れ校での実習への取組の状況
- ・実習のレポートの内容
- ・大学での研究協議における発言内容や参加態度

授業科目名： 健康教育特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小林 稔
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 生涯の健康を見据えたときの若年時代の健康と身体活動の大切さ 1. 健康問題を社会科学の視点から理解することができる。 2. 生涯の健康にとって、児童・生徒期を含む若年世代の健康と身体活動の大切さを理解することができる。 3. 疫学的方法とは何かを理解するとともに、健康・身体活動に関する調査を試行することができる。			
授業の概要 人間にとって最も重要なものは、命であり健康であることは言うまでもない。このことは教育の分野においても、十分認知されるべきものであろう。よって、人生100年時代を迎える学校教育では、健康や健康にかかわる身体活動について、これまで以上にエビデンスに基づいた知見を取り込む必要があると考えられる。本授業では、健康や健康にかかわる身体活動に関する実証的研究について概観するとともに、いくつかのテーマについてディスカッションを実施したり、健康・身体活動に関する調査を試行したりする。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（本授業にかかわるこれまでの研究と学修分野など） 第2回：生涯の健康にとって重要な条件とは？ 第3回：生涯の健康における子ども時代、若年時代に健康であることの意義 第4回：学校教育における「健康教育」の具体について 第5回：わが国における子ども時代、若年時代の健康と身体活動の実態（体力・運動能力調査から） 第6回：わが国における子ども時代、若年時代の健康と身体活動の実態（スポーツの実施状況から） 第7回：健康・身体活動に関する調査研究の計画立案（量的・質的調査） 第8回：健康・身体活動に関する調査研究の計画・実施の検討（量的・質的調査） 第9回：計画を立てた調査研究の実施と国内外の文献についての究明 第10回：健康・身体活動に関するインタビュー調査 第11回：入力したデータの分析方法と分析（量的調査） 第12回：入力したデータの分析方法と分析（質的調査）			

第13回：計画を立て、実施した健康・身体活動に関する調査研究（量的調査）の結果の考察
 第14回：計画を立て、実施した健康・身体活動に関する調査研究（質的調査）の結果の考察
 第15回：量的・質的調査から総合的な考察の実施と本授業のまとめ
 定期試験：レポート

テキスト 特に指定しませんが、その都度紹介します。

参考書・参考資料等 OECD公衆衛生白書「日本——明日のための健康づくり

（経済協力開発機構：明石書店）

テーマティック・アナリシス法：インタビューデータ分析のためのコーディングの基礎

（土屋雅子：ナカニシヤ出版）

学生に対する評価

レポート試験50%，調査研究の計画・立案20%，インタビューの分析とまとめ20%，
 各回授業中の発言10%

授業科目名： 国際理解教育特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 手 嶋 將 博
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
授業で扱う、国際理解教育に関わる以下の5つのテーマについて、それぞれの理論や知識・技能を理解し獲得するとともに、授業実践の目的・内容・方法について、より高度な分析を行い、自分の意見を構築し、表現できるようになることを到達目標とする。			
Ⅰ．国際理解教育とシティズンシップ教育			
Ⅱ．異文化理解			
Ⅲ．自文化理解			
Ⅳ．コミュニケーション能力-異文化間コミュニケーションを中心に-			
Ⅴ．グローバル教育			
授業の概要			
本講義では、「国際化」「グローバル化」に対応する教育目標である異文化理解・受容と共生の態度、自文化理解に根ざした自己の確立、自らの考えの発信を含めたコミュニケーション能力といった、現代社会において必要とされる諸能力の育成に関する理論・実践を国際比較の視点から考察していくことを通して、多文化共生社会や、ESD、SDGs、グローバル教育、シティズンシップ教育等、キーコンピテンシーとしての市民性の涵養などに関する研究や実践事例を中心に上げ、文献・資料に基づいた講義と演習形式の発表・ディスカッションを並行して行う。授業は以下の5つのパートで構成されている。			
Ⅰ．国際理解教育とシティズンシップ教育（1回）			
Ⅱ．異文化理解(4回)			
Ⅲ．自文化理解(4回)			
Ⅳ．コミュニケーション能力-異文化間コミュニケーションを中心に-(4回)			
Ⅴ．グローバル教育(2回)			
授業計画			
第1回：国際社会におけるキーコンピテンシーとその育成			
第2回：異文化理解(1)～偏見と差別			
第3回：異文化理解(2)～対立と解決			
第4回：異文化理解(3)～寛容と共生			
第5回：異文化理解(4)～多文化共生社会			
第6回：自文化理解(1)～アイデンティティの確立とナショナリズム			

第7回：自文化理解(2)～文化の相対化

第8回：自文化理解(3)～自文化理解の学習実践

第9回：自文化理解(4)～歴史認識と未来変革力の涵養

第10回：コミュニケーション能力(1)～異文化間コミュニケーションの授業実践

第11回：コミュニケーション能力(2)～異文化間コミュニケーションの現状と課題

第12回：コミュニケーション能力(3)～異文化間コミュニケーションの国際比較

第13回：コミュニケーション能力(4)～異文化間コミュニケーションにおける情報発信能力

第14回：グローバル教育(1)～世界で求められる学力と「グローバル・シティズンシップ」の涵養

第15回：グローバル教育(2)～真の「国際人」をめざす教育とは

定期試験

期末レポートを作成・提出する。各回の授業では、各テーマについて分担して報告・発表（プレゼンテーション）を行い、授業後には、授業で用いたレジュメや資料を用いて討論したテーマに関する振り返りを行い、自分の考えをまとめたワークシートを作成し、翌週の授業前日までに提出させ、評価する。期末レポートは、これらのワークシートを基に、第15回授業後に「多文化共生のための教育のあり方」に関するレポートを作成、提出されたものを評価する。普段の授業でのレジュメや提出物（ワークシート）50%、期末レポート50%を総合評価し、定期試験に替えるものとする。

テキスト

・佐久間孝正著、『多国籍化する日本の学校 教育グローバル化の衝撃』、勁草書房、2016年

参考書・参考資料等

・平田利文 編著、『アセアン共同体の市民性教育』、東信堂、2017年

・各回の授業で扱うテーマに準じた書籍や資料を用いるため、前回の授業時終了時までに必要に応じて指示する。

学生に対する評価

授業中の課題（発表・ディスカッション等）への取り組み、および、レジュメ・提出物（50%）、期末レポート（50%）による総合評価。成績はAA（90点以上）、A（89 - 80点）、B（79 - 70点）、C（69 - 60点）、D（59点以下）の各段階で表され、Dの場合、単位取得は認められない。授業への出席が2/3を満たしていない場合、評価はF（資格なし）となり、期末レポートの提出資格はなくなる。単位認定はAA、A、B、Cまでとする。

授業科目名： 環境教育特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山縣 朋彦
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 天体・宇宙環境を理解していく上での基礎事項の習得を目指す。その上で、可能であれば、観測解析実習を行い、天文学の研究手法について理解を深める。以上を通して、日常とかけ離れた極限状態としての宇宙空間環境の理解と、その解析手法に対する理解を深めてもらう。			
授業の概要天文学及び、関連する物理学、物理数学の基礎事項の確認と演習を行う。必要に応じて、テキスト（原著論文を含む）の内容を輪講形式で、読み進める。また、状況が許せば、泊まり込みでの夜間観測実習を行う。			
授業計画 第1回：天文学の基礎事項1 距離の概念 第2回：天文学の基礎事項2 明るさと色の概念 第3回：天文学の基礎事項3 天球座標他 第4回：極限物理について 第5回：宇宙空間の特性について 第6回：天体データの特性と解析方法について 第7回：IRAF又はマカリによるCCD画像処理、解析 第8回：シュミット望遠鏡による観測とデータリダクション 第9回：渦状銀河・楕円銀河の解析 第10回：散開星団・球状星団の解析 第11回：カラー合成による小惑星探査 第12回：カラー合成による変光星探査 第13回：輪講1(主に恒星分野) 第14回：輪講2(主に銀河分野) 第15回：まとめ 定期試験、レポート			
テキスト Nature誌、Astrophysical Journal誌に掲載された最新論文			

参考書・参考資料等, 特に指定しない
学生に対する評価 講義時間中の発表、レポート等の総合判断

授業科目名： 情報教育特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐野昌己
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
情報を理解するうえで必要な基礎事項と応用分野の確認をする。そのうえで、情報を使いこなすために必要な論理的思考やアルゴリズムの考え方を確認して獲得する。情報の本質の理解と情報を使いこなす能力の涵養から、授業実践の目的・内容・方法について、情報を高度に活かすことができるようになる。			
授業の概要			
本講義では、現代社会に欠かせない情報の本質と情報技術の理解を通して、情報活用能力の育成やICTの活用について考察していく。			
現代社会は情報が溢れています。人々は、湯水のごとく溢れる情報から必要なもの、価値あるものを見分け、情報機器を活用して生活しなければなりません。情報に満ちた世界に生まれた世代には、湯水のように情報が身の回りに存在するのがあたりまえであり、字を学ぶように情報を学び、水や火を使いこなすように情報の使いこなしが求められています。本講義を通して、情報活用能力の必要性和涵養について学びます。			
授業計画			
第1回：情報と科学			
第2回：情報とは			
第3回：情報の利用			
第4回：情報と論理的思考			
第5回：情報とアルゴリズム			
第6回：アルゴリズム（1）－利用－			
第7回：アリゴリズム（2）－表現－			
第8回：アルゴリズム（3）－企画と計画－			
第9回：アルゴリズム（4）－実践－			
第10回：情報と社会－明と暗－			
第11回：情報の応用－ICTの活用－			
第12回：授業におけるICT活用（1）－企画と計画－			
第13回：授業におけるICT活用（2）－実践－			
第14回：授業におけるICT活用（3）－検証と改善－			

第15回：まとめ

定期試験は実施しない

テキスト

小学校学修指導要領（平成29年3月告知 文部科学省）

中学校学修指導要領（平成29年3月告知 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 情報編（平成30年7月 文部科学省）

参考書・参考資料等

参考書は授業時に随時指示する。資料はオンラインにて適宜配布する。

学生に対する評価

提出物／課題発表による。AA：全ての提出物／課題発表において全く独自の議論と実践を達成しているもの。A：全ての提出物／課題発表において新しい可能性や高い内容を持っているもの。B：提出物／課題発表において新しい可能性や高い内容を含んでいるもの。C：全ての提出物／課題発表について要件を満たしているもの。D：それに満たないもの。

授業科目名： 道徳科教育法特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 豊泉清浩
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 道徳科の目標と人間としての生き方についての理解を深め、道徳科の実践的な指導方法を修得する。			
授業の概要 道徳教育は、人間としての生き方を形成することを目的としている。道徳科は、学校教育全体で行う道徳教育の要として、道徳的価値の理解を基に、自己の生き方についての考えを深めることを目標としている。道徳科と各教科、特別活動、生徒指導等との関係を理解にする。道徳科で考える自己の生き方について、教育哲学の観点から理解を深める。読み物資料の検討による授業の構想や模擬授業を通して、道徳的実践意欲と態度を育成するための指導方法を修得する。			
授業計画 第1回：道徳教育の目的と道徳科の目標 第2回：道徳科と各教科の関係 第3回：道徳科と特別活動の関係 第4回：道徳科と生徒指導の関係 第5回：ボルノーの教育哲学（1）実存哲学と教育学 第6回：ボルノーの教育哲学（2）教育的雰囲気 第7回：ヤスパースの教育哲学（1）限界状況と実存的交わり 第8回：ヤスパースの教育哲学（2）ソクラテス的教育 第9回：ヤスパースの教育哲学（3）自己生成 第10回：読み物資料による授業構想 第11回：説話による授業構想 第12回：伝記による道徳科の教材の開発 第13回：読み物資料による模擬授業 第14回：伝記による模擬授業 第15回：説話による模擬授業 定期試験 テキスト			

文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説特別の教科道徳編』廣済堂あかつき、平成30年。

文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説特別の教科道徳編』教育出版、平成30年。

参考書・参考資料等

豊泉清浩『ヤスパース教育哲学序説』川島書店、2001年。

学生に対する評価

学修態度（30％）、模擬授業（30％）、レポート（40％）

授業科目名：生徒指導 特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：高橋克巳
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
・ 生徒指導全般に関わる重要事項をしっかり復習できる。			
・ 生徒指導に関わる現代的なトピックを自ら選択してまとめ、発表できる。			
・ 学級経営・生徒指導に関わる文献購読に積極的に取り組むことができる。			
授業の概要			
少人数なので基本的に演習形式で進める。各回とも、前半は高橋または担当者による話題提 供、後半は質疑応答で構成する。			
各回話題提供の内容は、大きく三種類を想定している。			
①生徒指導全般に関わる重要事項、②その他の個別トピック、③学級経営。			
授業計画			
第1回：上記三つの内容で構成する。各回の回数や内容等は学生数により異なるが、一例を示 すと以下のとおり。			
オリエンテーション 今後の進め方			
第2回：生徒指導の基礎			
第3回：生徒指導をめぐる現代的トピック 食物アレルギーなど			
第4回：学校カウンセラーの制度概観			
第5回：いじめ問題の動向			
第6回：運動部活動における体罰			
第7回：不登校を考える			
第8回：キャリア教育の課題			
第9回：学級経営とは			
第10回：文献購読(1) バグリー『学級経営』イントロ			
第11回：文献購読(2) 第1章 ルーティンと習慣			
第12回：文献購読(3) 第2章 ルーティンの導入：最初から確実に浪費を防ぐ			
第13回：文献購読(4) 第3章 ルーティンを機械化する			
第14回：文献購読(5) 第7章 秩序と訓育			

第15回：まとめ 生徒指導の概念の相対性

定期試験

テキスト

毎回のプリント。

文献購読では、以下のものを使用する（翻訳あり）

Bagley,W.C. 1907 Classroom Management: its principles and technique, The Macmillan Company.

参考書・参考資料等

文部科学省『生徒指導提要』を適宜参照するので、用意しておくこと。

学生に対する評価

出席状況、分担発表の状況等により総合的に評価する。